開会の辞

皆様おはようございます。

ただいまご紹介にあずかりました佐藤彰一です。この度の国際研究集会の開催にあたり、本グローバルCOE拠点のリーダーとして一言ご挨拶申し上げます。平成19年度に開始されましたグローバルCOEプログラムにおいて、私どもが提案した「テクスト布置の解釈学的研究と教育」が人文科学部門の12拠点の一つとして採択されました。

先行の文部科学省競争プログラム「21世紀COEプログラム」で、「統合テクスト科学の構築」と題した研究計画が採択され、平成14年度から5年間にわたりテクストの共通文法を求める研究に鋭意取り組み、幸いにして最高ランクの事後評価をもって終えることができました。その成果を踏まえて、新たに提示されたグローバルCOEには、言語ならびに文字テクストに焦点を当てたプロジェクトを申請することにいたしました。その最たる理由は新プログラムが大学院後期課程の教育に重点をおいたものであったことによります。

私どもは「統合テクスト科学の構築」プロジェクトで培った学問横断的指向と、博士号取得を目指す学生の教育の高度化という指向、この二つの条件を満たすプロジェクトの策定に知恵を絞りました。その結果、以前のプロジェクトの主題に変更を加え、それに伴い教員メンバーを部分的に入れ替えながら、「テクスト科学」の高度化を目指すという、私どもの学問・教育面での大枠のアンビションを追究する内容の「テクスト布置の解釈学的研究と教育」と銘打った教育研究提案を作り上げました。一つのテクストの生成とその解釈行為の背後にある、現実のものであると同時に、それらが生みだす観念連合でもあるテクストの布置状況を、思惟の星座としながら所与のテクスト解釈と対決することは、大いなる知的膂力とそのための鍛錬が求められます。そのような学問的営為を通してのみ、新たな解釈学的地平を開きうるのだという思いが、私どもが博士論文を準備する若い人たちに伝えたいことでもありました。

この度もまたプログラム選定委員会の慧眼を得て、5年間のプロジェクトとして採択されたことは上に紹介させていただいたとおりです。

さて私どもは昨年グローバルCOEに採択されて以来、3回の国際研究集会を重ねてまいりました。第1回目は先般惜しくも急逝された故天野政千代教授が責任者となって、国際歴史英語・言語学会（SHELL）との共催で、「英語歴史テクストの文献学的・文法論的研究」と題して昨年9月7日から3日間の日程で行なわれました。第2回目の国際研究集会は「バルザック、フローベール　作品の生成と解釈の問題」として昨年12月14日から3日間の日程で、松澤和宏教授を組織責任者として行なわれました。第3回は、再び故天野教授の主催で「テクスト解釈の中に人間のアイデンティティを探る」と題して、今年の2月に2日間にわたって開かれました。この度の国際研究集会は第4回にあたります。阿部泰郎教授が組織・学術責任者となり、「日本における宗教テクストの諸位相と統辞法」というまことに魅力的な題名が付されています。すでに昨日大須の真福寺で開かれたプレカンファレンスで知的助走が開始し、本日から始まる3日間の濃密なプログラムへの期待は空中に帯電しきっている感さえいたします。

この度の研究集会には海外と国内から多数の方々にご参加いただきました。海外からはフランスからフランス学士院会員ジャン＝ノエル・ロベール教授、ロンドン大学のルチア・ドルチェ教授、ブライアン・ルパート、イリノイ大学准教授、ケンブリッジ大学のアンナ・アンドレーワ博士、また国内からはすべてのお

名前を挙げることができないのは甚だ申し訳ないのですが、末木文美士東京大学教授、岡田荘司国学院大学教授、落合俊典国際仏教学大学院大学教授、彌永信美氏を初めとする各分野の代表的専門家にお加わりいただきました。この度の国際研究集会の特徴は、ラポー・ガエタンさんを初めとして公募で選ばれた数多くの若手の研究者が多数参加し、ペーパーを読み、討論に参加する構成となっていることです。多忙のなか労を厭わず本研究集会にご出席いただいた皆様に、ここであらためてお礼を申し上げる次第です。

最後にグローバル COE の主旨をまことに適切に体現する、このような研究集会を組織された阿部泰郎教授、ならびに阿部教授の指導のもとに準備にあたられた学部学生、大学院生、そしてグローバル COE の事務担当の皆様に厚くお礼申し上げます。

2008年7月19日

グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」拠点リーダー
名古屋大学大学院文学研究科教授　佐 藤 彰 一